

# 幼児の生活に於ける繪本 (二)

立教大學 心理學研究室 築 添 正 二

十一種に類別した中で、イの童畫繪本を名付けたものの中の(一)は、謂はゞ綜合繪本(三云つてもよい)と思ひますが、内容は單一のテーマでなく、いろ／＼の事柄が取上げられ、案配編輯されてゐるものであります。その童畫繪本のあるものを一年間に發行された十二冊に涉つて、計一七八圖の内容を分類してみます(表一)

表 1

A	季節的特長圖	30	圖	17	%
B	觀察畫	47	圖	26.9	%
C	童話	45	圖	25.3	%
D	童話	34	圖	19.5	%
E	漫畫	7	圖	3.9	%
F	教材	3	圖	1.7	%
G	その他	12	圖	6.7	%

Aの季節的特徴畫は便宜上分離しましたが、内容はBの觀察畫に入れるものであります。このA・Bの觀察畫を名付けたものは、繪が主で、これに簡單な表題的説明がついてをり、子供の觀察に任してあるもので、之が全體の約四十四%を占めてゐます。この觀察畫を更

に次の様(表2)に分類してみました。次に全體の四十五%を占める童話、童話は次の様(表3)に分類されます。

表 2

A	身近い出來事、場面	26
B	未知の可能性の多い 出來事、場面	25
C	動物、植物	9
D	のりもの	10
E	物語	5
F	その他	3

表 3

A	子供の現實生活に近い 出來事又は現實生活描寫	16
B	現實生活に身近い事物	17
C	自然	10
D	動、植物、小鳥、昆蟲 (イ)ありのまゝ(ロ)擬人化	12 11
E	のりもの、その他	13

表2、表3のもので全體の九十%が編輯されてゐる譯であります。これらは表に見る通り子供の生活に身近に親しみのある事件、事物にその主題が選ばれてゐます。觀察畫はその特長として季節的行事、新しい事柄、科學

なごの新知識の觀察注入の目的のものが全體の1/3あります。

次に繪のタイプを分類してみます。

(一)メルヘンの童畫、名付けるものが全體の約四十%。  
 (二)自然的童畫名付けるものが約三十三%。この二種によつて大部分が占められてゐます。

(一)のメルヘンの童畫名付けたものは、擬人化された動物、小鳥、樹木、昆蟲なごを描いたものも含んで、多分に空想的な雰圍氣をもつ繪のタイプであります。その描かれてゐる人物、その他のものも特長ある線と色によつて描かれてゐます。線は太いのも繊細なものも、判然として居り、色は對照的に鮮かな效果を示してゐます。人物、その他のもの、動きは固定化して、流物性や生々した感じがありません。謂はゞ回轉してゐる映畫のフィルムが瞬間停止した様な印象をうけます。又畫の全體の均合が、夫々自然に大きかつたり、小さかつたり、自然な感じが與へられません。(人物と人物、人物と背景、人物と點描物なごの)一人の人物についてみても、不自然に大きく均合のきれない頭なごが描かれてゐます。

これは搔畫期から圖式表現期に入つた幼兒の繪が、その人體表現に於て殆んど、頭部を過大に描くこごや、一つの繪の内容物の相互間に何の連絡もなく、人物を描いた隣に

それと同じ大きさの花を描くこご、實物の印象も頭の中で觀念化して象徴的に描くこごなごを比較して考へてみます。このメルヘン・タイプの童畫は、幼兒の描く繪と共通な重心的特徴をもつた繪でも云へませうか。このタイプの繪から享ける感じは、如何にも子供らしい繪と云ふ感じで、線と色の明確な單純さからうける印象は鮮かであります。

(二)のタイプを描く童畫家の代表者は武井武雄氏、初山滋氏(なご)

(二)の自然的童畫名付けたものは、前者に對照的な童畫として、全體の約三十三%を占めてゐます。これは一口に云ふと、子供の生活をごく自然に寫實的に、而も重心的雰圍氣を失はずに描いたものです。描かれた内容の形も色も不自然な不調整や對照をもつてゐません。背景も人物や點描物も自然に調和してゐます。更にこのタイプの繪は、前者と反對に何れも「動き」をもつてゐます。人物もその手足なごが夫々目的に向つて均合のされた統一のある全體的な運動を示してゐます。澤山子供集の集合した場面でも、メルヘンタイプのレヴェュー式靜的統一と異つて、一人一人が自然な動きを示して全體を構成してゐます。このタイプの繪から享ける印象はゆるやかで、刺戟的要素が少い。これは現實の自己經驗範圍の再現を喜ぶ幼兒前期に適合し、空想的要素の多くなる幼兒後期に對して正確な寫實的效果を

與へるもの云へませうか。(このタイプの代表としては、清水良雄氏、川上四郎氏、本田庄太郎氏など)

以上の分類考察から考へてみますと、このタイプの繪本は幼児期の生活展開の特徴要素を大體に於て一致し、童心について良心的に考究されて、編輯構成されてゐる感じがうかがはれるのであります。

次に蒐集した繪本類の全部A・童書繪本↓K・マンガに至る各類型から二部づつ、抜いて、次の諸點から、分類してみました。

- 一、人物
- 二、動物
- 三、魚、昆蟲、鳥
- 四、場面
- 五、行動

以上の統計表は略しますが、その結果は次の様になります。

一、では、子供のための繪本ですから、その生活感、觀察感からしても、子供の現れない場面はないと云つてもいい様です。又、内容の子供をめぐる大人も、父母、兄弟姉妹、先生、軍人などの順で、母子子の現れる場面が多い。

二、三、では一般に愛玩物、鳥、傾向のもの、(犬、猫、馬、猿、うさぎ、牛、ねずみなどが動物表中六十%。小鳥、にはり、ひよこ、雀、鳩などが鳥表中五十四%) 大部分で、動物中、擬人化したものでは猿が多く、うさぎ、ねずみ、などが次ぐ。

四、の場面の類別では、室外では自然、街路のものが大部分、室内では家庭での場面が断然多く描かれてゐる。

五、の行動(何をしてゐるか)の統計では「遊んでゐる」のが一番多く、「何か見てゐる」「動物などを可愛がつてゐる」などが次ぎます。その他約三十種に分けられる程の幼児の生活の種々相が描かれてゐます。

- 以上を總括してみますと、
- 一、幼児生活への親密感、
  - 二、日常生活そのものゝ興味ある場面、
  - 三、メルヘンの要素の加味
- などが、主とした特徴としてうけとられます。

### 觀察報告

次に、極く少數の範圍でしか實驗出来なかつたのでありますが、出来るだけ自然な状態で幼児が各種の繪本に對する態度を觀察してみました。

- 一、どんな繪本を好んでえらぶか、
  - 二、繪の主題を正しくうけとるか、
  - 三、繪を全體としてみるか、部分的にみるか、
  - 四、その他
- などを中心にして、出来るだけ全體的に觀察を試みてみました。

観察対象としたのは東京の新市街中流階級家庭の幼児を  
 收容する幼稚園児二十二人(男・女半数)で、次の様な方法  
 を取りました。

場所は園内建物内や、隔離されたガラス戸の多い明るい  
 部屋、実験者も被験幼児は大抵が知合ひの仲で、親しい  
 子供ばかりです。二人づゝ部屋に入れて、入口を入つた所  
 に雑然を置いてある繪本(後記)にしばらく自由に接し  
 てをいて後、「その中から好きなのを二冊づゝもつて、こゝ  
 でゆつくり見て頂戴。」と幼児用の低いテーブルに導き、實  
 験者は普通のテーブルで書物する様な調子で成可く子供に  
 干渉しないで観察し、記録しました。大抵の子は問はずも  
 も一人で見乍ら喋りますが、黙々見る子には時々實驗者  
 から、説明を求める様に、誘導しました。同一の繪本を二  
 人が同時に選んだ時には片方が見てから交換しました。

観察材料の繪本は次の様を選びました。

イ、	童畫繪本	8
ロ、	生活描寫繪本	8
ハ、	擬人化繪本	2
ニ、	のりもの繪本	6
ホ、	動物繪本	2
ヘ、	軍事繪本	2
ト、	お伽繪本	3
チ、	觀察繪本	8
ヌ、	立體繪本	2
ル、	漫畫繪本	2
計 44 冊		3

(リ)雜誌形式の學  
 習繪本は除きました。

さて、以上の経路で、子供が選んだ繪本は次の様であり

ました。

表 5  
 (子供の選んだ繪本)

繪本	男兒	女兒	冊數計	%
イ	5	7	12	27.3
ロ	0	4	4	9.5
ハ	0	4	4	9.5
ニ	7	2	9	20.0
ホ	1	2	3	6.8
ヘ	8	0	8	18.0
ト	0	1	1	2.2
チ	0	0	0	0
ヌ	1	1	2	4.5
ル	0	1	1	2.2

計 44 冊  
 (各個人の選んだ繪本の  
 組合せは省略します)

表5の通り男、女兒二十二人によつて、四十四冊選ばれ  
 た内、(イ)童畫繪本が二十七%を占めて、女兒の方がや  
 多く選んでゐます。次に多い二十%の(ニ)ノリモノ繪本は  
 殆んど男兒が選んでゐます。十八%の(ヘ)軍事繪本は男兒  
 のみで、女兒中これを探り上げようとしたものも若干はあ  
 りましたが結果は一人もありませんでした。これに反し  
 (ロ)生活描寫繪本(ハ)擬人化繪本は女兒のみ。

一般に男兒の選擇態度は早く、明快で實驗者の言葉に従  
 つて「ボク、コイツダ」「コレ スゴイゾ」なごみ云つて氣に  
 入つたのを取り上げます。女兒は選擇に時間がかかり、二  
 冊以上ももちたい、欲張り傾向がありました。  
 かうして二冊の繪本を夫々選んで、テーブルについてか

ら二冊を一通り見終る時間を五分單位に類別してみます。次の様に示されます。

表 6

分	男	女	計
0—5	0	1	1
5—10	1	1	2
10—15	3	1	4
15—20	6	3	9
20—25	0	2	2
25—30	0	3	3
30—35	0	0	0
35—40	A 1	0	1
	11	11	22

平均：  
 男 19 分 5 } 20分 2  
 女 20 分 9 }

これによる平均二十分を山として女兒の方がやゝ永く見てゐる傾向を示してゐますが、大體男兒の方が見方が荒つぽくせつからで、女兒の方が氣に入つた場合でお喋りが長い傾向があつた結果が示されてゐます。

註(牟島教授による遊戯の研究中の繪本を見てゐる時間は平均二十三分一)

子供の繪本を見る態度は實に種々様々で、出来るだけ忠實に記録した結果を讀むだけでも興味がつきませんか、これを大體まごめてみました。

一、經驗回理想型。これは最も多い型で幼兒期の特徴の代表的なものです。

例。海岸線の自然描寫の圖を見て。(女兒)……急に何もかを見付け出した様に緊張して……「コレキツトク

リガ濱ヨ、クリガ濱イッタトキ、オ母サンガネテタトキ、ヘンナクサツタモノ モラツテ イヤデ ニゲタノ……」

遠足の圖を見て(男兒)「……コナイダ先頭ニナツタネ……」

滿洲風俗圖を見て(女兒)「……コレ 支那ヨ、ニューズデミタワ……」等

人參の繪を見て(男兒)「……ダマシテタベタツケ」(欺されて食べさせられたらしい)この型の特長は觀察者、又は隣りの友人に話したがる、説明したがる傾向があり、その態度は自信をもつて、押しつけ氣味です。

二、經驗聯想型。繪を自分の經驗と結びつけやうとする。例。騎兵斥候の圖を見て(男兒)

「……斥候ニ行ツテクルンダゼ……長屋ノ子ノオ兄サンカナ……」

狂犬病豫防注射場の圖を見て(男兒)

「……コノ犬、コノブル コワガツテルンダゼ……コノ子タクサン モツテヤガルナ、四ヒキダゼ……」後でボツンミ「……ウチノイヌキナクナツタンダ……」

自轉車の繪(女兒)「……自轉車一バイノツテルワネ、(數へて)六ツノツテル……コウチャンノジテンシヤコドモノリヨ、小チャイ ワガツイテルカラ アブナクナイ

ノヨ……」  
 三、觀察型。これは若干あつた型で客觀的に見、批判的な言葉を出す。

例。幼稚園の圖(男兒)「しばらく見てから」……コレ東京ノヂヤナイネ……」

白熊の圖(男兒)「……コンナシロクマカシコインダッテ……ユキノナカニキルカラシロインダナ……」

(女兒)「……テフ〜ガナイテル……ハチミツガナイカラネ」

四、情緒型、これは女の兒に多いタイプ。

例。「……マア カワイ、ウサギ……」  
 「オ花ノ人ヨ、笑ッ

テルワネ……」  
 「イ、デスネーイ、デスネー」

「カワイ、カラススキサ……」  
 「……怒ツタ顔キラヒヨ……」

「アッ、キミガワルイ、キラヒ……」

五、没入型。

例。年の市の圖、(女兒)「……迷子ニナリソウネ……」

お菓子の圖(男兒)「……オイシサウダネー」

小川の圖(女兒)「……マタゲルワ……デキナイカナー」

以上は大體の觀察の型であります。こゝで注意された事はウマイナーキレイイナノミ云ふ、見方をした子供が男兒に一人しかるなかつた事です。

次に繪の主題の受け取り方は、觀察の結果から見るに、男兒が割合全體的に、又誤りなく判斷し、女兒は細部に注意して、主觀的な時として誤つた判斷を下す傾向がありました。例へば、兵隊がキャンピングして、「飯がう炊さん」をしてゐる繪を男の子は大きく前面に描かれた場面に注意し女の子はその圖では背景となり細部である。「……兵隊サン ホタルトッテル……」場面に注意しました。

主題のうけざり方の誤りは自分の知らないものを經驗内で判斷しやうとする所から生じます。例へば、プール混雜の繪を見て、

「……コレ オセントウ(錢湯)ダ、ケンカシテ入ッテル……」  
 「……わたげのたんぼの繪を、……オ花ダナ姫百合カナ」

幻想的な白馬の繪を、「……大根ネ」の如きものです。

以上は僅か二十二人についての觀察の記録を抄出したものですが、この觀察から大體次の様な結論を得ました。

一、殆んど例外なく幼兒たちは自分の經驗(最近の事柄が、印象の強かつた事)に繪の場面や内容を結びつける。説明のつかない未知のものも、それを自分の經驗内の何ものか結びつける。それで満足する。

二、繪を上手さか、きれいさか批判したものは一人(男兒)きりで、他は、可愛いさか、面白いさか、すき、きらひさか、内容の具體物に主觀的な觀察を投げる。即ち、

繪してより内容の事實にひかれ、喜ぶ焦點は常にそこにある。

三、二冊えらんだ繪本を完全に二冊とも見る子は少く、一冊に熱中するか、普通に一冊見終るに飽きて、二冊目は態度が甚だ不熱心な傾向がある。

四、繪を完全に全體として認才するものは少い。部分的なものに注目し、内容の何ものかについて判断して満足する。

### 結語、私見

幼兒は繪畫の内容の事實的興味によつて繪を見るに云ふ判断は、この小觀察に於ても一致してゐます。かうして幼兒が藝術的に美を、色を鑑賞するのでなく、事實の再現として繪を見る以上、繪本の内容は、先づ幼兒の生活の事實的興味にその焦點を居かねばなりません。教育的効果から云つて事實を正確に描いたものが善い云へませうが、それはたゞ寫實的に正しく再現されたものでは幼兒が喜んで見る繪は云へません。即ち教育的な正確さ云ふことが、この場合、幼兒心理と一致した意味の正確さであることが必要です。童心を擱んで幼兒の目に素直にうけられる様なものでなくてはなりません。

幼兒の描く繪からその獨自性(不均合、矛盾、不統一、想像と現實のからみ合ひ)などを看取し、一方繪の内容の部分

の事實に喜びを見出す、幼兒の繪を見る態度から、幼兒のための繪本が出されなくてはなりません。

幼兒は具體的事實から繪に興味をもちますから、赤本の様な色があくまでなくとも、描寫が目茶目茶なものでも喜ぶのですが、情緒的科學的教育のいつれからも、わるい繪本が幼兒をスポイルする事は云ふ迄もない事です。飽くまで、よい繪本を科學的に究明することは必要な事です。小兒を小賢くする様な目先だけの繪本も避けたいものです。幸ひ良心的な高級繪本の發行が、若干あり、不斷の精進をつゞける童畫家、童話、童謠作家があり心強いものがあります。が、此の際幼兒に繪本を買ひ與へる親たちの反省と共に、高級でなく一般的に擴がる繪本となる様當事者の商策的研究も必要な事と信じます。K社の繪本の氾濫からみても先づ月刊形式(日本獨特)の繪本からもつゝ横に擴がる方法がある様に思へます。

- 一、幼兒に理解され易い經驗的に親密感の溢れた、
  - 二、線の鮮かな色の明い、
  - 三、描寫の正しい然し重心的な矛盾を消化した、
  - 四、内容の複雑でない、
  - 五、科學的、教育的要素を加味した、
- 善い繪本の氾濫を祈つて止みません。